

各診療科推奨モデルコース

放射線診断・IVR養成コース

モデルコースの研修順は一例で、実際の研修順は異なる場合があります。

必修内科

必修救急

選択必修

選択

その1（放射線診断・IVRを3ヵ月研修するコース）

1 年目												2 年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
内科						救急			放射線診断 (院内) (選択 1)			選必 1			選必 2			選必 3			選択 2			選択 3		
												地域医療 (週1)														

（コメント）

選択の期間9ヶ月のうち、放射線診断・IVRを3ヶ月回るコース。  
1年目に放射線診断を3ヶ月回った後、各科で画像診断がどのように利用され、どのように役立ち、現時点での限界は何かを研修する。  
2年目には、選択を2つ選び、その中で地域医療も研修する（1ヶ月集中的に回るか、6ヶ月週に一度回るかは個人の自由）。放射線診断においては各診療科の臨床を出来る限り幅広く見ておいた方が良いため、このコースがお勧めである。また後期研修では、放射線6ヶ月コース、9ヶ月コースに比べ、決して不利にならないように配慮する。選択の一つに病理診断を加えることも将来、有用である。

その2（放射線関連を6ヵ月研修するコース）

1 年目												2 年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
内科						救急			放射線診断 (院内) (選択 1)			選必 1			選必 2			選必 3			放射線治療 (選択 2)			選択 3 (地域ブロック1ヵ月)		

（コメント）

選択の期間9ヶ月のうち、放射線関連を6ヶ月回るコース。  
1年目に放射線診断を3ヶ月回った後、各科で画像診断がどのように利用され、どのように役立ち、現時点での限界は何かを研修する。  
2年目には、放射線科専門医の受験のため必須である放射線治療を3ヶ月研修する。選択科目は個人の好みに応じて選ぶのが良いが、地域医療は選択中に1ヶ月間集中的に回る。

その3（放射線関連を9ヵ月研修するコース）

1 年目												2 年目														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
放射線診断 (院内) (選択1)			内科						救急			選必1			選必2			選必3			放射線治療 (院内) (選択2)			放射線診断 (院内・固定) (選択3)		
												地域医療 (週1)														

（コメント）

選択の期間9ヶ月のうち、すべて放射線関連を回るコース。  
1年目に放射線診断を3ヶ月回った後（出来るだけ早い時期が望ましい）、各科で画像診断がどのように利用され、どのように役立ち、現時点での限界は何かを研修する。  
2年目には、放射線科専門医の受験のため必須である放射線治療を3ヶ月研修する。最後に、放射線診断を3ヶ月回り、後期研修へとつなげる（ただし人数により、治療と診断が入れ替わることもあり）。地域医療は放射線関連6ヶ月のうち、どこかで研修する（集中または週1）。